

日立市、高萩市、北茨城市の養護教諭との合同研修会 (ハイブリッド研修会)

日時：令和6年2月29日（木）午後2時～3時

場所：日立シビックセンター502号室及びZoom

演題：歯科疾患の健康格差とは？健康の社会的決定要因の考え方を理解する

講師：東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科

健康推進歯学分野 教授 相田潤 先生

過去10年間ほどの間に、国際的に口腔の健康の重要性の認識が高まっており、2019年には医学誌 Lancet で196年の歴史の中で初めてとなる口腔保健の特集号が出版され、2021年には世界保健機関（WHO）の第74回世界保健総会で口腔保健に関する歴史的な決議が承認された。このように口腔の重要性の認識が高まった理由として、口腔疾患の有病率の高さや健康格差の大きさ、口腔の健康が全身の健康に影響することなどがデータに基づいて認識されるようになってきたことが挙げられる。

特に健康格差に関しては、新型コロナウイルス感染症は、社会に大きな影響を与えた。自殺は失業や貧困が大きな原因となるが厚生労働白書（令和3年版）では、過去10年ほど減少を続けていた自殺者数が、コロナ禍で増加に転じ、そして自殺の増加は女性で顕著なことが示されている。このような状況下、う蝕の健康格差についても、所得の低い家庭や、シングルマザーの家庭で影響は強いと考えられる。

私が健康格差の研究を始めたきっかけの大きな一つとして、学校歯科検診の際に「むし歯の多い子どものことは、必ず校長先生が覚えている。ただし、校長先生はむし歯のことで覚えているわけではなく、給食費を払っていない家庭ということで記憶しておられる」ということが挙げられる。不健康の原因は、単純に「知識がないから適切な保健行動ができない」というわけではない。こうしたことを理解する上で重要な概念が「健康の社会的決定要因」となる。この概念を理解することが健康格差の縮小に極めて重要になる。歯科疾患の健康格差とそれを縮小するために何が必要か、解説をしたい。

申込（欠席の場合は返信不要）

●会場参加

●Zoom参加



氏名

<https://forms.gle/3nLSkPUmRNriQqxG9>

返信先 日立歯科医師会 事務局 FAX 0294-38-0407

締切 2月22日（木）